

私の大切な家族

レイ ♀ 3歳 (犬・ダックスフンド)

軽 舞 ^{おかむら}岡村 ^{のぶひろ}信 洋 さん家族



憲子さんといつもベッタリのレイ

「寝るときは、いつも私と一緒になんです。とっても甘えん坊さんなんです」と奥さんの憲子さんは目を細める。いつも家族みんなから人気者のレイ。常に岡村家を癒してくれる存在だ。前の飼い主の方が亡くなって、声をかけてもらい譲り受けることに。「出会った瞬間に思わず目を奪われてしまったんですよ『かわいい〜』って！室内犬を飼うのは初めてだったし、うれしかったです」と憲子さん。人見知りや激しく、知らない人が尋ねてくるとうるさく吠えるのがたまに傷だが、2〜3回出会えばなれるという。「気分転換でもと思えば外に離せば、ロケットみたいに飛んでいくんです。あまりの勢いにびっくりしちゃいますよ」と笑う。「夜になり、家族が揃えばレイのとりあい。もうすっかり3人目の子どもです。とにもかくにも岡村家の“永遠のアイドル”ですね」と目じりを下げた。

ペット、本を紹介してください。お気軽にまちづくり推進課企画調整グループまで (☎27-3179)

出 会

い

き

い

き

ふるさと

凶

鑑



このマチのポストカードを作ってみよう

本郷

杵淵 ^{きねぶち}

孝 ^{たかし}

さん (54歳)



先月、苦信厚真支店支店長に就任され、道を覚えるのに苦戦中の杵淵さん。ちよつと意外な一面を紹介。「漁師町の日高管内えりも町で生まれ、中学3年まで過ごしました。とにかく外で遊ぶことが好きだったせい、一年中真つ黒な子でした。山に行つて穴を掘つて遊ぶことが当たり前だった時代、わんぱく少年だったので一緒に暮らしていた祖母によく叱られました。でも、どんなに叱られても『おばあちゃん子』だったので、いつも祖母にくっついていましたね」と幼少の思い出を話す杵淵さん。厚真支店の前は、苦小牧本店の監査部で手腕を振るっていた。ここ厚真の地は10力所目の営業拠点となる。その明るく気さくな人柄と、ひたむきに仕事に打ち込む杵淵さんへの部下の信頼は厚い。「高校では寮暮らしでした。サーカスが好きで体操部を見学に行つた時、『びよんびよん』飛び跳ねてる姿を見て、「おもしろそうだな

〜』と思つて入部したんです。ただ、小さい頃から好きだったマンガやレタリングの方が熱心だったかも。きっかけはアニメ、巨人の星の『星飛雄馬』にあこがれたから。授業中にノートの端っこに落書きをしていました。何だか懐かしいですね」と当時を振り返る。高校卒業後、ここで人生の岐路に立つ。その頃、大工にあこがれていた杵淵さん。お母さんに「ステキな家を建ててやるよ」と言っていたほどだったが、事態は急転した。最終的には、もともと興味があった金融業界の苦小牧信用金庫に入行し36年もの月日が流れた。「今は、いかに人を育てるかというのを念頭に置いて仕事に励んでいますね。昔から何かトラブルがあった際は、原因の根底をとことん突きとめます」と強調する。「厚真に来て驚いたんですが、街並みがとてもきれいですよね。そして町民の方の人柄がいいのかなと。都会とは違い、気軽にあいさつを交わしてくれます。後は何とんでもお米がおいしいですよ！この町の要所を、これから見つけていく中で、『ポストカード』を作ってみようですね。この先どんな時を過ごすことになっても、マンガは死ぬまで描きつづけたい。描くことは、私にとって最大の生きがいです」と言い切る杵淵さんだ。

本

私の出会った素敵な本

「約束」

石田 衣良 / 作

上厚真小学校教諭

太田 ^{おおた} 亮 ^{あきえ} 恵 さん

教師だった父親の後ろ姿を結果的には追い求めた太田先生。「この本は憧れていた親友と一緒に下校途中、通り魔の犠牲になり、『死ぬべきは自分だった』と責め続けるんですが、最後は天国の親友にしっかり生きると“約束”するお話なんです。小学生が主人公ということもあって、クラスの子どもたちをつい考えてしまい、ポロポロ涙がこぼれそうでした」と話す太田先生。実は憧れは一方通行ではなく、この二人は互いに認め合っていた。「人に憧れることってよくあると思うんです。例えば自分がないものを持っていたりすると。でもそれぞれが、かけがえない存在。みんな光放つ色が違うんですよ」とほほ笑む。睡眠前の読書が日課の太田先生は、『東野圭吾』の作品もお気に入りだ。たまに落ち込む夜は、とことん前向きになれる気持ちが向上するものを読むという。「本を読むことによって、癒しの時間と空間が作られます。私の中に新しい価値観が生みだされますね」と太田先生から笑みがこぼれた。

